

## 1. 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4070501061		
法人名	有限会社トータル・ケア・サービス田原		
事業所名	グループホームあしたば	ユニット名	あしたば
所在地	福岡県 北九州市 小倉南区 新道寺396		
自己評価作成日	平成26年5月10日	評価結果市町村受理日	平成26年7月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do">http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

## 【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市 博多区 博多駅南四丁目3番1号 博多いわいビル2階		
訪問調査日	平成 26 年 5 月 27 日	評価確定日	平成26年7月15日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<ul style="list-style-type: none"> <li>● 入居して10年目になられた方もおられるが、入居者の半数以上の方々は認知症の諸症状が一進一退しつつ、身体的レベルが低下してきて、常に医療行為の必要な方や全介助が必要な方もいますが、協力医との医療連携体制をとって、少しでも長くその方らしい生活が続けられるように支援しています。</li> <li>● 入居者のご家族等による家族会があり、入居者を支援するのはスタッフだけではなく、ご家族等も一緒に支援していただくことを理解していただき、相互協力しての支援を行うように努めている。また、秋には、家族会主催の食事会を行っており、外食やお弁当等を皆で囲むことで入居者の方に喜んでいただいています。</li> </ul>
--

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

<p>“グループホームあしたば”のある東谷地区は高齢化率が70%である。90歳の方がトラクターを運転し、農業をされている方もおられ、近隣の親戚同士や地域の方々の支え合いも残っている。雨戸が閉まったままのお宅には、近隣の方が「元気？」と声かける姿も日常にあり、施設長は、地域の方々に「ご心配な事があれば、何でもご相談して下さい」と日々お伝えしている。開設以来、地道に地域の方との交流も深めてこられ、地域のボランティアによる演奏会が行われたり、ホーム主催の餅つき会には近隣の保育園児が訪問して下さり、地域の方や家族の方々も協力して下さっている。職員の資質向上にも努めており、年間計画による内部研修を続けている。職員が自主的に入居者の方々の楽しみに繋がるアイデアを考え、日々実践して下さっており、施設長や管理者も嬉しく思っている。これからも、理念にある「入居された方ひとりひとりの能力を今以上に引き出し、自立した日常生活が送れるように」、外出支援にも取り組み、更なる“楽しみ”を増やしていく予定にしている。</p>
--

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域に密着したグループホームを目指し、毎月のケア・ミーティングに於いても、理念を意識した話し合いを目標としている。理念はホーム内に掲示し、ホーム紹介パンフレットへの掲載など機会あるごとに掲示し、共有している。	25年度に施設長が基本方針の見直しを行い、スタッフからも「わかりやすい」と言う言葉が聞かれている。管理者や先輩スタッフが、丁寧に新人の育成を続けており、新人スタッフにも会議で意見を言ってもらっている。入居者のペースを大切に、ゆったりと待つケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	● ホーム主催行事に近隣施設の利用者・保育園児さん達を招待し、中学生の職場体験学習を受入れ、地域の文化祭に作品を出して交流を図っている。● 消火避難訓練に消防団や地域の方の協力がある。	竜光保育園の運動会等に参加している。ホーム主催の雨上がりコンサートにも園児が来て下さり、地域の方も、琴や尺八、アコーディオンなどを披露して下さっている。中学生は、体験学習以外にもクリスマスカードを持ってきて下さり、地域の方からも野菜などを頂いている。	入居者の方々は子供たちとの交流を楽しみにされている。今後は小学校への挨拶などを行い、子供110番の設置を含めて、小学生との交流の機会を増やしていきたいと考えている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議への出席や、イベントや消火避難訓練などに参加していただくなど、ホームを訪れていただくことで、入居者の方々への支援方法を直接見ていただき、認知症の理解の向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、年6回開催(うち2回は家族会との合同開催)し、日々の活動やサービス状況を報告して意見や要望等を受け、今後のサービス向上に向けて取り組んでいる。	年2回は日曜日に開催している。ホームの取り組みや実状をご理解下さり、前向きに解決策の検討をして下さっている。外部評価結果も報告し、災害対策に関する意見も頂いている。今後も、ホームに関係のある方にも声かけし、情報交換を行っていききたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市区担当者との連携は運営推進会議が主体となっているが、それ以外にも介護保険課や地域包括支援センターに相談や質問に行くなどして、入居や制度に関する情報交換などの連携を図っている。	26年春の指定更新時には、市の担当者から個人情報管理に関する指導等をして頂いた。反社会的勢力の排除に係る法令等の遵守についても相談し、教示して頂いた。地域包括の職員からも適宜アドバイスを頂き、空室が生じた時には、入居希望の方のご紹介をお願いしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	内外研修で理解を深め、身体に限定しない「拘束をしないケア」に取り組んでいる。玄関には防犯目的で必要最小限の施錠をしているが、門扉に鈴をつけることで、拘束しないよう工夫した防犯対策も行っている。	常にスタッフによる見守り体制があり、ホームでの点滴時の付き添いも職員がしている。身体状況の変化で転倒の危険性が大きい方は、一時的にフットセンサーを使用し、スタッフが直ぐに対応できるようにしている。ホーム裏口のドアは夜間以外は開錠しており、自由に入出入りできる環境になっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	スタッフは、高齢者虐待についての外部研修を受講後、ケア・ミーティングで話し合っ復習している。特に管理者は、身体的のみならず精神的虐待防止の徹底にも努め、入居者の尊厳を守るよう取り組んでいる。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度については外部セミナー等を受講し、受講した内容を内部研修会で発表して知識を共有している。また、当該パンフレットを常備し、問い合わせ先等をご家族に説明している。	25年度の家族会総会で、管理者から制度に関する説明が行われた。入居時にパンフレットを渡し、制度の説明を行うと共に、必要に応じて弁護士と司法書士等の紹介ができる事も説明している。施設長と管理者が制度の必要性の確認を行っている	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結及び解約については、入居者本人と家族から聞き取りと説明を丁寧に行ない、相互に不安や疑問のないように理解・納得をした上で契約書や同意書を交わしている。改定の際も同様に行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	● 運営推進会議や、年2回の家族会総会では、ご家族のみでの意見交換時間をとり、忌憚ないご意見・ご提案をいただける環境づくりに努めて、運営に反映させている。 ● 玄関に「ご意見箱」を設置している。	年に数回、『あしたば通信』を家族に発行している。面会時や電話、メール等で暮らしぶりを報告し、要望を伺っている。入院中、「ホームに帰りたい」という要望が聞かれる時も、入院中から医療連携を図り、退院に向けての準備が行われている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回のケア・ミーティングで、全スタッフの意見や提案を聞く機会を設けている。又、業務終了後に提出する‘業務日報’で、連絡・相談・提案等を挙げられるような体制をとっており、それらを運営に反映している。	26年度から、勤務終了時に「業務日報」を提出する事になり、仕事内容の振り返りを行うと共に、連絡・相談・提案等も記入する事ができている。内容に応じて、管理者や施設長、事務主任などに相談できる体制が作られ、職員の意見は日々の業務に活かされている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	開設者代表は、管理者・介護職員の勤務状況・態度を把握して意欲や努力を評価することで、向上心を持って働けるように努めている。介護方針決定やイベント等は職員主導で行い、勤務時間等の希望にも諸事情を考慮して対応している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	スタッフの募集・採用に際し、性別・年齢・宗教などを理由に対象からはずすことはない。また、園芸や工作などの特技・能力を發揮して勤務でき、外部研修参加や上位資格取得等の支援体制を布いている。	職員が生き生きと働けるよう、一人ひとりの得意な分野で力を發揮して頂いている。今年度もヘルパー2級やケアマネの資格取得にチャレンジしている方もおられ、休み希望も叶えている。全スタッフが協力して、より良いチームが作られている。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	スタッフは人権に関する外部研修に参加し、その内容を内部研修で発表して共有している。開設者代表等は、全ての人々の人権について日常的に話しており、人権に対するスタッフの意識が高まるように取り組んでいる。	ご本人の生活歴にも配慮し、知識や特技を活かした役割を發揮して頂いている。「自分の事は自分でしたい」という方にも、適度な距離感を持って接している。ご自分の世界やプライドを受容し、尊重するようにしており、スタッフも日々実践している。	

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	● 新任職員にはマニュアルに沿った指導を行っている。● 年間計画による内部研修を行い、外部研修での情報は会議等で共有し、理解を深めている。● 働きながら上位資格を取得できるように勤務調整をしている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業他事業所のスタッフや入居者を相互のイベント等に招待して、交流の機会を設けると共に、お互いに情報交換や相談の出来る関係を築き、サービスの向上に努めている。		
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人と面会し、医師・相談員等から現状を、ご家族等からはこれまでの暮らしぶり等について伺い、安心して入居できるような関係づくりに努めている。必要に応じた体験利用もあり、本人の不安や要望等を受け止めて、信頼関係を築けるように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居の相談に来られた時から、ご家族がどのような点に困っておられるのか、何を求めているのか、十分に耳を傾け、少しでも気持ちの負担を軽減できるように誠意を持って対応しており、利用開始前から信頼関係を築くことが出来るよう努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に出来るだけ詳細に聞き取りを行い、医療連携体制を整えていることを説明した上で、入居準備（支援内容の見極め）を進めている。又、医療や他の介護サービス利用を含めて、本人に適切な支援方法を選択できるような説明も行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方が「何もできなくなった」「世話されてばかり」と心的負担に思うことがないように、出来ることに着目し、時には教えていただきながら、「出来ない事わからない事は教え合う」といった相互支援の関係を築き、生き活きと生活していただけるよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の日々の様子を、手紙・メール・電話や来訪時に伝えている。家族会の時には「家族が中心となって、介護職員と共に入居者を支えていく」ことの重要性を繰り返し説明し、協力していただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出や外泊、友人などの来訪を推奨し、高齢や遠方などで来訪が難しい方とは、電話等で馴染みの関係が途切れないよう支援をしている。また、イベント等へのお誘いなど、いつでも気軽に来訪していただけるようお勧めをしている。	日頃の会話の中で要望を伺っている。家族にも生活歴を教えて頂き、センター方式に記入している。家族と外食をする時などは、食事や排泄等のケア内容を説明し、外出先で困らないように支援している。ご本人のお気持ち(混乱)にも配慮しながら、馴染みの場所へのドライブをしている。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	全スタッフが入居者の個性を把握して、意志を尊重するように努めている。入浴の声掛けの時に、スタッフと一緒に、他の入居者の方からも勧めていただくなど、お互いに関わり合い、支え合えるような支援に努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も、ご家族が困った時には連絡をくださるようご案内をしている。また、ご家族の許可があれば、退居後の移転先に面会に伺う等、入居中に培った本人やご家族等との関係を大切にしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の言動を注意深く観察し、ご家族からも情報収集をして希望や意向を把握するように努めており、これ迄の暮らしぶりを変えないように支援している。また、表情や声のトーンから、意思疎通困難な方の思いも把握するよう努力している。	ご本人がさり気なく発した言葉や、態度の中に秘めている思いを汲み取るようにしている。意思疎通が難しい方は、声のトーンから痛みや痒み、排泄(尿意や便意)などを推測し、“本当に伝えたい思い”を探り続けている。報連相ノートで職員間の情報共有をしている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者の言動や表情等を注意深く観察し、ご家族からも聞き取りをした生活歴や馴染みの暮らし方等を把握して、センター方式に記入することで、全スタッフが情報を共有したケアの実現に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	既往歴・現病歴を把握し、バイタルや表情・言動の変化等を見逃さないよう、常に状態の変化に注意を払っている。入居者の日々の過ごし方や興味・関心を持たれたことなどにも気をつけ、全スタッフが情報を共有して現状を把握できるように努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人とご家族の意向を反映すべく、積極的に情報収集を行なう。月2回のケア・ミーティングにて、計画作成担当者が中心となって行なう意見交換の中から課題点を見出し、修正や変更を繰返しながら、現状に即した介護計画を作成している。	スタッフは担当制であり、定期的に担当を変更している。健康管理を重視し、水分補給ができるように、ご本人が好まれる食べ物(果物など)を家族から教えて頂き、計画にも盛り込まれている。クラシック音楽鑑賞やテレビでの相撲観戦などの趣味なども把握し、日々の生活で楽しんで頂いている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の入居者の介護記録に、本人の日々の様子や言動・表情等を本人の言葉のまま・見たままに記録している。また、介護日誌や報連相ノート等での申し送りや情報共有に努め、ケアの実践や介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問マッサージ、訪問歯科診療、スポーツインストラクターによる体動レク等、個々の要望に応じた柔軟な支援に取り組んでいる。また、心身状態が重度化した場合には、協力医との連携を強化して、本人やご家族の希望に対応できる体制をとっている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域駐在所の警察官や消防署員には、巡回や訓練等での協力をお願いしている。消火避難訓練には、消防署だけでなく近隣住民や消防団の協力・助言も頂いている。又、中学生の職場体験学習の受け入れや近隣の保育園児さん達とのイベント等でも地域交流を図っている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医・事業所の協力医の希望する医療機関を適切に受診できる。又、協力医との医療連携体制をとっており、週1回の看護師による健康管理を行ない、月2回の在宅診療も行われており、入居者やご家族・スタッフが医師等と気軽に相談できる関係を築いている。	近隣の医院が協力医であり、24時間対応して下さっている。認知症専門医との協力関係もあり、不要な薬は減らして下さっている。症状説明も丁寧にして下さり、家族との情報共有もできている。訪問看護師は巻き爪の処置等もして下さり、職員の相談にも応じて下さっている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関との医療連携体制をとっており、日々の身体状況の把握により気づいた点や気になる点は、協力医や看護師等にいつでも相談できる体制がとられている。これにより、病変の早期発見と増悪防止に努めている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、入院前の本人の状態や様子を医療関係者に伝え、本人が落ち着いて治療を受けられるように支援している。又、入院中はスタッフが面会に行き、食事介助等の支援をしつつ、退院に向けての情報把握に努め、早期退院に向けて生活に支障がないように支援している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 重度化や終末期のあり方の希望等をご家族から聞き取り、ご家族が中心となって、それをスタッフが支援する体制であることを説明している。</li> <li>● 医療連携体制の中で、出来る限り、本人やご家族の望まれる最期のあり方を支援するように努めているが、事業所として出来る事と出来ない事を説明し、理解を求めている。</li> </ul>	「最期はここで」と言う方もおられる。特別な治療や医療の必要がない場合は看取り支援が行われている。施設長や管理者が家族と何度も話し合い、主治医とも面談してもらい、終末期に対する理解と心の準備をして頂いている。必要に応じて毎日の往診や訪問看護も受けられ、職員の安心になっている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急時に慌てずに対応できるよう、急変時・事故発生時の対応手順マニュアルと緊急連絡手順を作成している。また、救急教室を開催し、消防署救急隊員による心肺蘇生法やAEDの使い方、応急手当の方法等の指導を受けている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署と連携して昼夜を想定した消火避難訓練を、入居者・スタッフ・近隣にお住いの方・消防団員等の参加・協力で、年2回実施している。地域の方には、ホームから外に避難した入居者を安全な場所への誘導と保護をお願いしている。	消防団の方は携帯番号を教えて下さり、協力体制ができています。地域の方とも災害時の協力体制の話し合いが行われ、町内会長等に相談し、屋外にも火災報知器の音響装置を設置する事ができた。スプリンクラーも設置し、災害に備えて、飲料水や乾パン、羊羹、軍手等を準備している。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ホーム内で人格の尊重などについての研修を行なって意識を高めており、人間の尊厳を損なうことがないよう、指示的・否定的な言葉を使わず、思い遣りある言動で接するよう努めている。申し送り等の際にも場所と声の大きさに注意を払っている。	“入居者の尊厳を大切にしたい”という施設長の思いはスタッフに引き継がれ、“思いやりのある心”、“感謝の心”を持って、全スタッフが入居者の尊厳を尊重したケアを行っている。入浴や排泄時も、肌の露出を少なくしたり、さりげなくトイレ誘導する等、羞恥心への配慮が行われている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	決して無理強いをせず、「どのように過ごしたいか」を優先している。入居者と共に過ごす中で、言動や表情に秘めた思いを汲み取る努力や、幾つかの選択肢から選んでもらうなど、出来る限り本人の希望に沿えるよう努力して支援している。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日を通しての、おおよその基本的な流れは決めているが、無理強いすることなく、入居者の希望や状態・ペースに合わせて、その人らしい生活を送ることが出来るように支援している。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	認知症の進行や歩行状態不良により、理美容店に行くことが難しくなった時は、ご家族と相談し、資格を持ったスタッフがボランティアで散髪を行っている。又、普段着と外出着については、TPOなどにも気をつけ、髭剃りなど清潔感のある身だしなみの支援をしている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	下ごしらえやテーブル拭き・食器拭きなど、入居者の出来る範囲で、食事の準備や片づけに関わっていただいている。行事食や地域特産メニュー等も提供して、食事を楽しめるような工夫と支援を行なっている。	主に管理栄養士が調理をされている。毎月の“47都道府県の地域特産メニュー”も好評で、季節の料理も提供されている。裏庭で育てた苺と一緒に食べたり、職員が採ってきて下さるツワや土筆(つくし)の皮むき等を入居者がして下さったり、杖を持ち、コップ等を下膳して下さる方もおられる。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	専属管理栄養士によるバランスの良い食事を提供している。食事や水分の摂取量、体重の増減などを把握して、食事が摂れない時は栄養補助食品等も提供している。歯の状態や嚥下の程度に合わせて刻み食やお粥にするなど、食べやすい形態での食事提供に努めている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりに応じた口腔ケアや義歯の洗浄の声掛け・見守りをし、自分で出来ない場合はスタッフが介助している。また、週に1回の訪問歯科診療でも口腔ケアをしていただき、スタッフはその指導を受けて実践している。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	介護記録に排泄パターンを記録することで、入居者の排泄リズムを把握し兆候を見逃さずに、プライバシー等に配慮したトイレ誘導を行なうように努めている。又、出来るだけ紙パンツやおむつの使用を止めて、布パンツで過ごせるように、状態を見て変更している。	ケアの成果もあり、布パンツに変更できた方もおられる。羞恥心に配慮して誘導時の声かけを行い、排泄が自立している方にはスタッフがトイレの外で待つ等の対応も行われている。居室の洗面台をトイレと勘違いされる方には、家族が洗面台を隠すために板などで覆いをして下さった。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	出来るだけ便秘薬に頼らないように、栄養バランスを考えた食事や水分を提供し、腹部マッサージや体動レク・ラジオ体操等を勧め、定期的な排便があるように個々に応じた便秘予防に取り組んでいる。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	充分な見守りが出来る環境で入浴していただきたく、概ね午後(昼食後～)に決めているが、午前中に入浴などの希望があれば、出来るだけ希望に沿えるように対応している。‘菖蒲湯’や‘ゆず湯’などの季節湯も楽しめるよう工夫している。	その時の気分を見計らい、声かけのタイミングを大切にしている。入浴を拒まれる方は無理強いせず、足浴をきっかけに湯船に誘導する事もある。入浴時は一緒に歌を唄い、会話も楽しんでいる。自分でできる事はして頂いており、体調に応じて2人介助も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	これ迄の生活習慣や日々の体調等を把握し、食後に入居者が自室で臥床していても、眠たくない入居者にはテレビを見ていただいたり、温かい飲み物を提供する等の支援を行ない、自分のペースで休息や睡眠をとっていただいている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人別処方薬確認表や受診結果報告票等で、処方薬の内容変更や増減等の情報を共有している。又、誤薬のないように、処方薬の分別から服薬の直前までに3度のチェック体制を布いており、服薬後にも状態観察や薬袋管理を行なっている。		



自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	● 家族等から聞き取った生活歴等から、クラシック音楽鑑賞やTVでの相撲観戦等、入居者の趣味や興味のあることを探して支援につなげている。 ● 洗濯物たたみ等、本人の出来る範囲内で役割を担っていただいたり、気分転換にドライブに出かけている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の体力(特に脚力)低下やPM2.5等の影響により、日常的な散歩や外出は少なくなったが、お花見など出来るだけ希望に沿ったドライブ等の外出支援にご家族と共に努めている。また、近隣保育園の運動会参観などの外出支援も行なっている。	家族の面会時には玄関まで見送りし、そのまま外のお花を楽しんで頂いている。JRの駅にあるパンフレットを集める事が好きな方がおられ、駅まで散歩する機会も作られている。10人乗りの車があり、小倉城や“源じいの森”など、北九州市内や近隣の観光地のドライブも楽しまれている。	今後も体調や天候などを見ながら、外出する機会を増やしていく予定である。テレビを見ながら季節のお花の話題が膨らむ事も多く、“今しかできない外出”を増やしていく予定である。
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	原則として、医療費等の他には、お小遣い程度の金額のみを事務所でお預かりして管理している。外出時におやつを買う等、希望に応じて入居者が自由にお金を使うことが出来るように支援する体制を整えている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者自らが電話を掛けたり手紙を書くことは、現在は難しい。電話がかかってきた時には、入居者が戸惑うことのないようにスタッフが傍に付いて支援している。また、相手には現在の入居者のご様子を説明している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅に居るような、のんびりとくつろげる空間を大切にし、家庭的な家具を使い、テレビの音量にも気をつけ、心地良く過ごせる配慮をしている。また、リビングには、入居者が作った季節感のある作品やホームでのイベント写真便り等を掲示し、会話のきっかけ作りにも努めている。	ホーム全体は広く、中庭を中心に一周できる造りとなっている。中庭には、大正時代からの井戸があり、プランターに植えた花や陶製のテーブルや椅子を配置している。“つばめの巣”も複数あり、雛の成長も入居者の楽しみとなっている。リビングにはリファもあり、和室の床の間や炬燵(冬)も落ち着いた空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間に居室が接しているため、一人になりたい時やゆっくりしたい時は、自室で過ごしていただいている。また、廊下にソファを置いており、回廊を歩いて休憩する時などに利用していただいている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を持ち込んでいただき、普段使っておられた食器類を使っていただくことで、自宅での生活との変化を少なくするように工夫している。家族の写真や思い出の品々、自分で作った作品等を飾ることで、落ち着いて過ごせるように工夫している。	馴染みの家具や寝具の他に、お仏壇や写真、本(愛読書)など、大切な物を持ち込まれ、入居前に描かれた絵や観葉植物なども飾られている。道路沿いの居室の窓には目隠しをしており、外から見えにくい工夫もされている。	

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	各居室の入口には表札と目印の絵を貼り、トイレの扉には大きな文字で「トイレ」と表示し、入り口の判り難いトイレには赤提灯をつけ、電気のスイッチにはシールを貼る等の工夫をして、入居者が出来るだけ自立した生活を送れるようにしている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		